

# 市民タイムス杯少年サッカー新人戦

## 筑摩野に初の栄冠

第一回市民タイムス杯少年サッカー新人戦は十六日、松本市営サッカー場でベスト8に勝ち進んだチビッコイレブン百六十人余が集まり、初の市民タイムス杯をかけた決勝トーナメント戦を行った。

この日松本地方は冬の気圧配置が強まり、最低気温は氷点下一・五度。午前中は晴天が広がったが、日射時間は三時間半と短く、最高気温は平年より五・三度も低い七・七度で、十二月中旬なみの真冬を思わせる一日。短パン姿の選手、声援を送る後輩選手や父兄はブルブル。なかにはグラウンドでトン汁をつくり、暖をとるチームもあった。

試合は決勝トーナメントにふさわしく、少差のゲームを展開。同点でPK合戦にもつれ込んだゲームも二試合。事実上の決勝戦ともいえる、準々決勝Dコート第二試合の筑摩野―筑摩戦ではPKをはずした選手が悔し涙を隠し切れないでいた場面も。優勝候補の筑摩野が1―0で池田に勝ち、市民タイムス杯の栄冠を手にしたが、初の公式新人戦で、自分の背より大きなゼッケンをつけた補欠選手の健闘ぶり、試合は初めてという、ニューフェイスの活躍が場内を沸かせた。

試合後の閉会式で大会長の新保力松本市民タイムス社長は「寒さを吹き飛ばすような元気な試合を見せてくれ、優勝チームはほんと

### 少年サッカー結果

◇準々決勝	南松本 6	3	1	1	2	芝 沢
池田 3	1	0	1	1	1	松 島
穂高南 3	2	1	3	0	3	謙 田
PK (4-2)						
◇準決勝	筑摩野 1	0	1	1	1	筑 摩
池田 2	2	0	0	0	0	南松本
筑摩野 3	3	0	1	1	0	穂高南
PK (4-1)						
◇決勝	筑摩野 1	0	1	0	0	池 田



ガッツポーズ阿部君(左)と伊藤君

「うれしい、さっぱりした」と少年らしい笑顔を浮かべる阿部次雄君(二一)。決勝戦で貴重な一点をあげた。アシストの伊藤圭介君(二二)は「ゴール前を見たらずバスのキャプテンらしいおちついた表情でこたえる。先攻された準決勝の穂高

南戦が一番苦しかった、という。チームを見守った大和俊夫監督(三三)は「早い攻撃でいい試合ができました。チーム全体となって戦い抜き、なかでは筑摩とのPK戦を守り抜いたゴールキーパーの小野貴史君(二〇)をほめたい」と、まな弟子の活躍をたたえていた。

うにおめでとう。冬期間、いっそう頑張る練習して下さい」とあいさつ。松本市スポーツ少年団・宮沢安昌本部長もチビッコイレブンの健闘ぶりをたたえた。優勝した筑摩野チームに市民タイムス杯と賞状。新保大会長から金メダルが選手一人ひとりの首にかけられ、二日間にあたる熱戦の幕を閉じた。

△得点●阿部次雄(筑摩野)▽アシスト●伊藤圭介(同)

筑摩野が優勝候補の実力を見せ、始終押しきりに試合を展開。前半に奪った一点を守り、快勝した。

試合は筑摩野の伊藤が混戦から右に持ち込み、絶妙のセンターリング。池田のゴールキーパーがキャッチしようとしたところを、阿部が止め、ゴール左すみにけり込み、先取点。これが結局決勝点となった。その後筑摩野は試合の主導権を握り、池田得意の大きなクリアーも、筑摩野の強いプレッシャーに押しえられなかった。守っても、筑摩野は集散の速さで上回り、オフサイドトラップなど新人チームとは思えない頭腦的な守備を見せ、池田の攻撃の芽を摘み、寄せ付けなかった。



新保力大会長から優勝メダルを受ける筑摩野チーム



優勝を決めた一点。伊藤からのセンターリングを阿部がキーパー前でトラップ(上)ゴール左すみへけり込み決勝点(中、下)